

令和5年度（2023年度）第1回公立高等学校配置計画
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

1 開催方法の変更について

- オンライン会議（Zoom会議）として開催しました。
（参加者は個人又は所属の端末から出席）

2 参加者数一覧

会場 (学区)	参加者										傍聴者 F	報道 関係者 G	合 計 H(E+F+G)	アンケート 提出者	
	行政 関係者 A	学校関係者			計 B	P T A関係者			計 C	経済団体 関係者 D					計 E (A+B+C+D)
		小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校							
空知南	9	6	8	11	25	1	2	1	4	3	41	11	3	55	9
空知北	14	10	14	9	33	1	4	4	9	3	59	2	3	64	11
石狩	9	1	12	32	45	3	8	2	13	0	67	4	1	72	11
後志	27	13	18	17	48	2	6	7	15	4	94	3	1	98	25
胆振西	6	6	5	11	22	1	3	0	4	1	33	2	1	36	15
胆振東	6	3	3	14	20	0	1	0	1	0	27	2	1	30	5
日高	8	6	6	7	19	2	3	1	6	3	36	2	3	41	12
渡島	9	9	12	23	44		1	3	4	1	58	8	3	69	21
檜山	7	6	7	4	17		1	3	4		28	2	1	31	8
上川南	16	10	8	22	40	0	1	5	6	1	63	7	1	71	20
上川北	8	5	7	8	20	1	1	3	5	1	34	5	0	39	13
留萌	14	7	6	5	18	2	4	4	10	3	45	3	2	50	9
宗谷	10	9	10	6	25	2	2	1	5	2	42	2	2	46	14
オホー ツク中	22	6	7	13	26	3	3	7	13	5	66	4	3	73	11
オホー ツク東	4	2	5	5	12	0	3	0	3	1	20	1	1	22	4
オホー ツク西	9	4	7	5	16	1	5	3	9	3	37	2	3	42	16
十勝	22	17	16	18	51	13	12	5	30	2	105	8	2	115	23
釧路	9	3	6	15	24	1	3	4	8	3	44	5	3	52	13
根室	6	5	5	6	16	4	1	3	8	1	31	1	0	32	9
合 計	215	128	162	231	521	37	64	56	157	37	930	74	34	1,038	249

令和5年度(2023年度)第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

・全ての学区で、Zoomアプリを用いたオンライン会議として開催

学区	開催日	開催時間
空知南	令和5年(2023年)4月25日(火)	10時30分～12時00分
空知北	令和5年(2023年)4月27日(木)	14時00分～15時30分
石狩	令和5年(2023年)4月28日(金)	14時00分～15時30分
後志	令和5年(2023年)4月20日(木)	10時00分～11時30分
胆振西	令和5年(2023年)4月19日(水)	10時00分～11時30分
胆振東	令和5年(2023年)4月19日(水)	14時00分～15時30分
日高	令和5年(2023年)4月28日(金)	10時30分～12時00分
渡島	令和5年(2023年)4月27日(木)	10時00分～11時30分
檜山	令和5年(2023年)4月26日(水)	10時00分～11時30分
上川南	令和5年(2023年)4月28日(金)	10時30分～12時00分
上川北	令和5年(2023年)4月28日(金)	14時00分～15時30分
留萌	令和5年(2023年)4月25日(火)	15時00分～16時30分
宗谷	令和5年(2023年)4月24日(月)	14時00分～15時30分
林-つ中	令和5年(2023年)4月26日(水)	10時00分～11時30分
林-つ東	令和5年(2023年)4月26日(水)	14時00分～15時30分
林-つ西	令和5年(2023年)4月27日(木)	10時00分～11時30分
十勝	令和5年(2023年)4月26日(水)	14時00分～15時30分
釧路	令和5年(2023年)4月17日(月)	14時00分～15時30分
根室	令和5年(2023年)4月25日(火)	10時00分～11時30分

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 地元市町村又は北海道の文化を高める人材を育成することを根幹に置いた高校づくりが必要と感じる。	○ 本道が将来にわたって輝き続けていくためには、学校と地域の連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが重要と考えております。
② 各学校の特色が現れたカリキュラムがつくられれば、子供たちが将来、どんな仕事をしたいとか、自己実現をどのようにしたいとかを考えながら高校を選択できるのではないかと思う。	○ 各高校においても、地元市町村や企業等と連携し、地域課題の解決等に取り組む学習活動を推進するなど、多様で柔軟な教育課程の編成に努めます。
③ 入学者数の動向や効率的な学校配置の考え方を踏まえつつ、生徒の進路選択を保障することが大切。 各市町や高校が、地域の実情や特色を踏まえて支援や教育活動を行っているのは素晴らしいと思う。	○ 地域の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながるとともに、学校の魅力化や特色づくりにも資するものと考えており、道立高校においてもコミュニティ・スクールの導入などを進め、社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校や地域の実情に応じた推進体制の構築に取り組み、地域の自治体や関係機関等と連携・協働し、地域の実情を踏まえた特色ある高校づくりを推進します。
④ 学校の教職員、保護者、地域住民が、子供たちの将来のために、より良い教育の在り方を常に考え合わなければならない。	○ 異校種間の連携については、これまで、例えばサケの放流や田植えなどの体験学習のほか、高校生が講師となって理科実験や自然環境調査に取り組むなど、高校生の日頃の学習の成果を地域貢献につなげる取組を行っており、今後も成果の普及と取組の充実に努めます。
⑤ 少子化が進む中、義務教育における特別な支援を要する子供たちが増加している。実情を踏まえ、高校における魅力化とともに、子供たち一人一人が未来社会において生き抜く力を身に付けられるよう、小中高の連携を進めていく必要があると考える。	○ 生徒の学習ニーズに対応できる高校づくりと、生徒の修学機会の確保や地域創生の観点に立った教育機能の維持の両面から、地域とつながる高校づくりや活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。
⑥ 昨今、学力や通学距離だけで受験校の選択をせずに、自己の適性を理解し、夢の実現のために多様な学びを求める生徒が増加しているように感じている。	

■ 「これからの高校づくりに関する指針」 (改定版)	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 指針が改定されたことには、これまでの本協議会の一定の成果を感じている。引き続き、各学校や地域の実情も踏まえ、柔軟に対応していただきたい。	○ 「これからの高校づくりに関する指針」は、教育環境の変化や地域の教育課題等に的確に対応し、国の施策の動向や時代の要請等を踏まえ、必要に応じて見直しを図ることとしています。
② 小規模町村では、どの職業分野においても労働者不足が顕著になっていることから、特に地域社会に関する学科や専門学科(職業学科)、総合学科においては、地域内の行政や企業、団体との連携を図り、インターンシップや業務説明の場の実施などにより、就労につながる取組を期待する。	○ 地域の関係機関、産業界等と連携を深め、地域に根ざした様々な活動により広く社会に貢献することを通し、生徒一人一人の高い専門性と豊かな人間性を培う実践的な教育活動を推進します。
③ 高校無償化といわれていても、まだまだ通学費等の問題で地元の学校に行かざるを得ない子供たちもいるのが現状なので、もっと学びたい子供にも、手厚い環境があると良いと思う。	○ 各種奨学金制度や高等学校遠距離通学費等補助制度の適切な運用に努め、社会情勢の変化や財政状況等を勘案し、必要に応じて見直しを検討します。
	○ 活力ある教育活動を展開する観点から、学校規模を維持していくことは引き続き重要ですが、一律の学校規模を目指すのではなく、それぞれの高校の機

<p>④ 学校規模について、「1学年4から8学級」という一定の学校規模を求めるのではなく、小規模校では、小規模校としての特色ある指導等を行っているということなどを考慮いただいたことは良かったと思う。</p>	<p>能や特色、求められる役割などを踏まえつつ、学校規模についても考えていくことが、生徒の多様な学習ニーズに応える特色と魅力のある教育を実現することにつながると考えています。</p>
<p>⑤ 新指針により、より多様な魅力ある高校づくりがなされていくこと、道内の子供の多様な進路選択に対応できることを嬉しく思う。 また、修学補助について、町独自で補助をしているところもあるが、北海道一丸となって、子供の教育充実のために施策を新たに立てていくことも望む。</p>	<p>○ 通学区域や通学可能圏域などの一定の圏域単位で、将来的に圏域内の高校が担うべき役割や高校の魅力化、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方等について協議を行い、圏域における高校の教育機能の維持向上を図ります。</p>
<p>⑥ 「一定の圏域での高校の在り方について地域とともに考える新たな仕組みの構築」に期待する。 また、地域課題探究型の学習体験が単に「絵に描いた餅」にならぬよう、行政・自治体の姿勢も併せて良い方向にいくよう働きかけていきたい。</p>	<p>○ 学校と地域等が連携しながら地域課題探究型の学習活動を推進し、生徒一人一人が、社会の変化に主体的に関わり、多様な他者と協働しながら、より良い社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるための資質・能力を育てていくことが必要であるとと考えています。</p>

<p>■ 特色ある高校づくりの推進</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【魅力化の推進】 ① 地域との連携と魅力ある高校づくりをするために、学科や指導内容の工夫、改善をお願いする。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校づくりや地域の特性を生かした魅力ある高校づくりに努めます。</p>
<p>② 誰もが大学進学という時代ではなくなった。特に地方はなおさらである。高校卒業と同時に重要な働き手となる。仮に普通科であっても、様々な資格や技術を身に付けられるような高校が必要だと思う。</p>	<p>○ 普通科においても、各学校の実情に応じて、関係機関と連携し、インターンシップや職場見学会を実施するなど、高校卒業後の進路の多様化へ対応する取組に努めます。</p>
<p>③ 魅力ある高校づくりの一つの視点として、学校生活のみならず、高校卒業後の進路（進学・就職）についての多様化・魅力化を図ってほしい。</p>	<p>○ 生徒の実態に応じて義務教育段階の学習内容の定着を図る、いわゆる「学び直し」に重点を置いて取り組んでいる高校があり、こうした高校では、必修科目の単位数を増やしたり、基礎的・基本的な内容を重視した学校設定科目の開設や、必要に応じた個別指導を行っています。</p>
<p>④ 地学協働の教育は是非進めてほしい。 地域の实情に合わせ、基礎学力の定着を保障しつつ、中学校の学び直しを保障できる独自のカリキュラムや、地域の特性に合った地域独自のカリキュラムを認めることが必要ではないか。</p>	<p>また、地域の特性に合った地域独自のカリキュラムについても、多くの高校で実施しており、こうした取組の充実に努めます。</p>
<p>【具体的な取組と課題】 ⑤ 指針の中にある「地学協働の推進」がますます重要になってくると思う。また、義務教育段階だけではなく、小中高の連携も重要になってくると思う。</p>	<p>○ 市町村や地域の関係団体のほか、小学校や中学校など、他校種との連携による地域の特性や教育資源を生かしたキャリア教育や、他校種を含めた学校間で相互に教員を派遣して授業を行うなどの取組を推進します。</p>
<p>⑥ 中学生が進路選択の際に求める「魅力」と社会（地域）が地元の高校に求める「魅力」に差異を感じている。</p>	<p>○ 地域の中高生や住民で実施する高校魅力化ワークショップに道教委職員が参加するなど、広く意見を伺いながら高校の魅力化に取り組めます。</p>

<p>⑦ アンビシャススクールなど、もっと高校ごとの魅力や特色を発信していただけたら、生徒たちも高校へ通う意味を深く掘り下げて考えることができると思う。</p>	<p>○ アンビシャススクール導入後、「中学校で分からなかった部分を復習できることはありがたかった」「中学の時は休みがちで初歩的なこともできないところもあったので、学び直せて良かった」といった生徒からの肯定的な意見が多かったことを学校説明会等で発信し、中学校や保護者の理解に努めます。</p>
<p>⑧ 従来の教科を横断する新しい教科の開設は必要で、外部の人材活用を積極的に進めていくべきだと考える。</p>	<p>○ 文系・理系といった枠に囚われず、教科等横断的な教育である STEAM 教育の推進や、大学や産業界と連携した、地域に根ざした様々な活動による実践的な教育活動を推進します。</p>
<p>【広報・周知】 ⑨ 今後の生徒減少を克服する手立てを考えるとともに、管内高校の魅力効果を効果的に発信することも大切ではと思った。</p>	<p>○ 多様なタイプの高校を紹介したパンフレット「わたくしの進路」を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配布するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</p>
<p>⑩ 地域創生における地方の高校への期待は高まっているが、高校がない地域には、高校の魅力や取組がダイレクトに伝わってこない。小中高生の交流も高校の取組を知るきっかけになるのではないかとと思う。</p>	<p>○ また、多様なタイプの高校の教育内容を紹介した動画についても、同じく高校教育課のホームページに掲載し、順次内容の更新を行っています。</p>
<p>⑪ 地元の高校卒業後の進路等、どのような可能性を持っているのかを生徒・保護者に伝えられると良いと感じている。</p>	<p>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配布のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。 注：道内公立高等学校のホームページは次の URL を参照してください。 http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html</p>

<p>■ 小規模校・地域連携校</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【教育環境の維持・向上】 ① 公教育としての小規模校の存在意義を踏まえ、教育環境の充実を希望する。</p> <p>② やはり、地域の学校が大切である。まちづくりに高校生が参画し、より求められる人材育成が図られるよう柔軟な教育課程を組めると良いと思う。探究的な学習を核に、地域に高校がある意義を模索できたら良い。</p> <p>③ 子供たちの選択肢が広がる特色ある教育課程の展開を期待している。</p>	<p>○ 他の高校への通学が困難な地域があり、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携校とし、北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））からの授業配信や、道立学校間連携などにより、教育環境の維持向上を図ります。</p> <p>○ 地域連携校間での合同授業や生徒会交流など、遠隔システムを活用した取組を行っているほか、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの構築、地域課題探究型の学習活動など、魅力ある高校づくりに取り組んでいるほか、教育内容の充実に向けて、第1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</p>
<p>【遠隔授業等】 ④ 課題もあると思うが、遠隔授業配信は習熟度別での授業が可能であり、大変有用性が高いと思う。 指針にもあるとおり、今後、多様な学習ニーズにも対応するべく、拡充される環境が望ましいと思われる。</p> <p>⑤ 魅力ある学校づくりの一つの取組として、ICT を活用した遠隔授業を掲げる学校があってもよいのかなと感じている。</p>	<p>○ T-base は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供するため、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し、教育内容の充実を図ること ・小規模校が、魅力化に取り組むことで、子供たちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさとの発展に貢献していく意欲を育むことを目的としています。 <p>また、T-base と地域連携校及び離島の高校を相互</p>

<p>⑥ 地理的に通学が厳しい地域であり、遠隔システムを活用した教育環境の充実を今後も進めていただくようお願いする。</p>	<p>に結び、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の高校へ授業を同時配信し、他校の生徒とともに学ぶ合同授業の実施 ・ 大学進学など、同じ目標を持った他校の仲間と切磋琢磨した学び ・ 夏季・冬季休業中の進学講習の受講 ・ 全国の最新情報を踏まえた進路指導の支援を行うなど、教育環境の充実に努めます。 <p>○ 生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実にに向けた取組を進め、その成果の普及に努めます。</p>
--	---

<p>■ 高校配置計画の策定</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【基本的な考え方】</p> <p>① 中学生にとっては、圏域内に多様なタイプ（役割）の高校が複数あると良いと考える。</p> <p>一方、少子高齢化がさらに進み、子供の数のみならず、人口減が一層加速する見通しであり、公共交通機関（あるいは地域の公共交通）を使って通える範囲が少なくなることが予想されると思う。地域の中で子供を育てる視点から、地元で高校があるのが望ましいと考える。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業生数や生徒の進路動向、学校規模、学校・学科の配置状況、欠員の状況などを勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p> <p>○ 中学校卒業生数が減少する中、生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、活力ある教育活動を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>② 規模を問わず、多様な学びの場が都市部、周辺部共に充実し、選択肢が広がるよう、機械的な統合整理とは異なる「再編」が行われるようお願いする。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域の教育機能を確保するための方策などを示す「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分踏まえるとともに、小学校の校長や保護者にも参加いただいている地域別検討協議会において、地域の方々の御意見を伺うほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただきながら検討しています。</p>
<p>③ 将来が見通せない少子化が進む中で、様々なデータ等によって計画を策定していただいているものと考えている。今後、多様な観点、意見を踏まえた計画案の策定をお願いする。</p>	<p>○ 今後、複数の高校が所在する一定の圏域単位で、関係する市町村の参画を得ながら、それぞれの高校が担うべき役割のほか、高校の特色化や魅力化、多様な学習ニーズに応える配置の在り方などについて検討し、地域全体での教育環境の充実を図ります。</p>
<p>④ 少子化が想定以上の速さで進行している中で、高校の再編・統合は仕方がない。少ない人数では満足な学校行事も組めない。部活動はかなり限定されてしまう。T-baseによる遠隔授業、通学バスの配備も含めて、これからの北海道における高校の配置計画は、予定を早めてでも迅速に進める必要のある課題である。</p>	<p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で地域事情も異なる本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑤ 高校の配置計画については、生徒の数だけではなく、個々の高校の役割など地域の声を十分に反映していただきながら検討していただきたい。</p>	
<p>【再編等（地域の実情等）】</p> <p>⑥ 遠距離通学費等補助制度の充実を願うとともに、管内に現在ある高等学校が、魅力ある高校づくり等によって維持され、地元の子供たちが地元の高校に進学できることが継続することを希望する。</p>	

<p>⑦ 出身中学校の近くに進学できる高校がなければ、進学のための交通費、寮や下宿等の費用等、学費の軽減措置がされても出費がかさむだけでなく、部活動をはじめ、高校生だからこそ取り組める活動にも制約が出てくる。高校の小規模化や教育水準維持の観点ゆえの再編整備も必要ではあるが、それらの点を考慮していただければと思う。</p>	<p>○ 急激な人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、交通機関の状況や、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いこと、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑧ 生徒の人数が減少している今日、学校再編をすることは致し方ない。しかし、中心地域に学校が偏る傾向があり、人口減少に悩みを持つ自治体にとっては痛手である。子供は地域で育てることを考えた場合、地元で学べる環境をもっと重要視すべきである。</p>	<p>○ こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携校として存続を図ることとしています。</p> <p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、各年度の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。</p>
<p>⑨ 広い北海道なので、様々な地域事情を抱えている。機械的ではなく、その地域事情に寄り添った計画に近づいていて、様々なに努力されていると思う。</p>	<p>○ さらに、今後、生徒数の減少等により、高校が所在しない市町村の増加も予想されることから、地元市町村と連携し、生徒の修学機会を確保するためにICTを活用するなど、新しい学びのスタイルについても検討する必要があると考えています。</p>
<p>⑩ 隣接している市町村であれば、普通科と職業科が合併して、総合的に学べるような規模の高等学校を新設していく方向が良いと思う。生徒数が減少していく状況がこの先変わることはないのでは、狭い地域の中で生徒を取り合うような状況は、どの学校にとっても良くないと思う。</p>	<p>○ 今後、生徒の通学可能圏内にある市町村とともに、高校の魅力化や配置について考える場を設定することも検討する必要があると考えています。</p>
<p>【再編等（小規模校の役割）】</p> <p>⑪ 高校は地域づくりの核の一つと考える。 道教委の設けた基準にのっとって再編を行っていかねばならない現状も伝わってきたが、可能な限り郡部の子供たちの多様な進路実現を後押しする環境を維持していただきたい。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があること、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。</p> <p>こうした中、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場としての役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p>
<p>⑫ 小規模校の存続の難しさは理解できるが、小規模校ならではの特色の出しやすさを考慮し、魅力ある高校づくりにつなげてほしい。高校と行政が一体となって、子供たちの進路選択の多様性を生み出してほしい。</p>	<p>○ 本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携校として存続を図ることとしています。</p>
<p>⑬ 少子化は止められないので、北海道の郡部の高校の在り方について、地域創生というくくりで考えていく必要があると思う。</p>	<p>○ 「これからの高校づくりに関する指針」において、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域とつながる高校づくりや活力と魅力のある高校づくりを推進することとしており、道教委としては、遠隔システムによる教育環境の整備や、市町村教育委員</p>

<p>⑭ 最近は、多人数の学校になじめない子や様々な理由で中学校に通えていなかった子が、高校進学を機に環境を変えるため、小規模校を選択し、学んでいる。 生徒数だけでなく、圏域でどのような子が学びの場を求めて通っているのかを考慮して配置計画を策定していただきたい。</p>	<p>会・地元企業等との連携・協働による特色ある教育活動などを通して、一層魅力のある高校となるよう、きめ細かな支援に努めます。</p> <p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見などを十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【私学・高専との関係】 ⑮ 過疎化の進む小規模高校での統廃合ではなく、私立高校がある都市部の間口減を原則としていただきたい。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と道及び道教委による「北海道公私立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業生数を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。</p>
<p>⑯ 公立高校の配置計画策定に当たって、私立高校の配置状況に十分考慮した上で、公私間の調整と定員調整をお願いしたい。</p>	<p>○ 公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学区ごとの私立高校の配置状況に配慮し、中学校卒業生数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。</p> <p>○ 今後とも、私立高校などの関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。</p>
<p>【学級定員の引き下げ】 ⑰ 法的に決められていることは承知しているが、地域の特性に合わせて定員 40 名の緩和をお願いしたい。地域の実態を考えると、高等学校のみ 40 名定員は時代にそぐわないと考える。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、本道独自の少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えており、定数措置の拡充について、国に対し、引き続き要望していきます。</p>
<p>⑱ 中卒者の状況に驚いている。減少することは地域の担い手が減少することにつながる。国、道、自治体が少子化対策に本格的に取り組まないと、地域の学校の存続も厳しいと考える。少人数学級で学校を減らさないことが大事。</p>	<p>○ これまでも、教職員数の少ない第1学年1学級の道立高校に対して道独自に加配を行っているほか、国の加配定数を活用した様々な加配を行っています。今後も、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するために、教職員配置の工夫に努めます。</p>
<p>⑲ 教育の質の維持を考えても、都市部以外の高校については1クラス30人学級の実現をお願いしたい。</p>	

<p>■ 職業学科の充実</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【職業学科の配置の在り方】 ① 普通科人気ではあるが、地域の専門学科のある学校も大切である。多様な生徒がいるように、多様な選択肢もあった方がよい。 ② 専門学科によっては急激な縮小が行われている実態があり、地域の産業や観光など、実態を踏まえながら、学区や全道的なバランスなどを考慮する必要がある。</p>	<p>○ 職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。</p> <p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与</p>

③ 小規模校、職業高校で定員割れ、2次募集、欠員が目立つ。慎重な定員調整や職業高校のコース編成の見直しが必要ではないか。

する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。

■ その他

意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【地域への説明等】</p> <p>① 地域から学校がなくなることは、小・中学校の子供や保護者にとっても切実な問題である。幅広い立場の人により丁寧に説明を行い、協議する場を設定することが大切だと考える。 こども基本法を考えると、高校生・中学生の意見を聞くことも大切ではないか。</p> <p>② 再編統合の場合に限らず、自治体や地域の声なども考慮するような柔軟な対応という道も残していただきたい。</p> <p>③ 地域の実情と地域の児童生徒が進路選択をどのように考えているかを大切に協議を望む。</p> <p>④ 特別支援学級の子供に限らず、全ての学級の子供について、特別支援の考え方に基づいた指導が必要な時代となっているが、「わたくしの進路」では、特別支援学校のことに一切触れられていない。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</p> <p>○ 地域別検討協議会では、地域の様々な立場の方から御意見を伺うことや、保護者や学校関係者に早い段階から高校の配置について理解いただくことが重要であると考え、小学校の校長、PTAや経済団体関係者にも参加いただいています。</p> <p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、毎年の中卒者の進路動向を分析するほか、必要に応じ、地元の中高生を対象とした魅力ある高校づくりなどに関するアンケート調査の実施やワークショップに参画するなどし、生徒の興味・関心や進路希望に対応するよう努めています。</p> <p>○ また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出席するなどして、より多くの方々から地域ごとの課題や配置計画に関して御意見を伺い、地域の実情等を十分考慮しながら、適切な高校配置となるよう努めています。</p> <p>○ 各特別支援学校の情報を掲載した「道立特別支援学校高等部のしおり」を毎年度作成し、北海道立特別支援教育センターのホームページに掲載しています。 注：北海道立特別支援教育センターのホームページは次のURLを参照してください。 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/</p>
<p>【地域別検討協議会】</p> <p>⑤ 計画に変更がなければ、特に対面開催は必要ないと思う。逆に、変更があれば、対面にしてほしい。</p> <p>⑥ 大事な案件なので、可能な限り、参加者一同がお互いの顔を見られる対面が望ましいと考える。</p> <p>⑦ 各参加者の移動にかかる時間を考慮して、オンラインで実施すべきと考える。</p> <p>⑧ より深い協議が求められる内容においては、オンラインでは不十分さが否めないと考える。</p> <p>⑨ オンラインと対面には、それぞれメリットがあり、そのメリットを参加者が選択できるため、ハイブリッドによる開催が良い。</p>	<p>○ 第1回地域別検討協議会については、新型コロナウイルス感染症拡大の防止等の観点から、全道19学区でオンライン（Zoom）による開催としました。配付資料はホームページ上での掲載とし、意見については、電子申請システムを活用し、取りまとめました。</p> <p>○ 第2回協議会については、オンライン会議が普及していることなどを鑑み、配置計画案で令和8年度に定員調整をお示しする学区、また、令和6～8年度に統合や募集停止などの再編整備を予定している学区については、対面会場とオンライン会議の併用で開催し、その他の学区については、オンライン会議での開催を検討しています。</p> <p>○ 今後も、開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、いただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。</p>

■ 今後の協議会についてのアンケート結果

配置計画の内容によっては、オンライン開催で構わない	55.0%
配置計画案の内容に関わらず、対面開催が良い	4.8%
配置計画案の内容に関わらず、オンライン開催が良い	36.6%
その他	2.4%
無回答	1.2%

【その他の意見】

- ・ハイブリッドによる開催が良い
- ・参加者が選択できる方法がよい
- ・どちらでも良い